

平成 26 年度

地域福祉座談会報告書【地区別】

南区社会福祉協議会

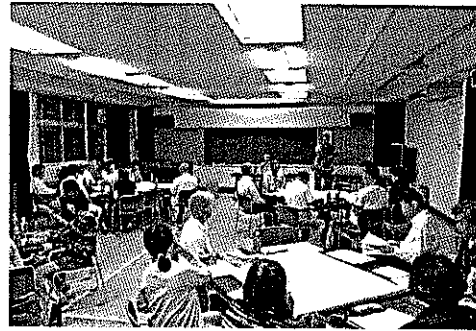
新飯田地区 地域福祉座談会

【実施概要】

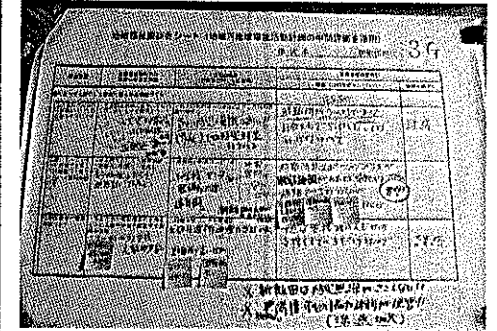
<第1回>

- 実施日時:平成 26 年 7 月 3 日(木)19:00~21:00
- 会場:新飯田地域生活センター
- 参加人数:32 名(4 グループ)

座談会の様子



成果物



【第1回:現計画の振り返り(評価)を抜粋】

1. 誰にとっても安心して安全に暮らせる地域づくり

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○各家庭で災害時の避難について話し合うようにする	・自主防災訓練により、家庭内で話し合いをする機会になっている	・防災訓練により、各々の家庭で防災対策をしており、関心が高い	・避難所が手狭なので、それらの対策を検討しなければならないので	継続 ・海拔が高く、水害よりも地震・火災・雪害等への関心が高い
○誰にとっても安全に避難できるよう、避難所の安全について検討を続ける	・避難所の耐震性の見直し ・自主防災会による避難訓練	・避難所(保育園、小学校)の耐震強化ができた しかし、地域生活センターは?	・住民にとって安全な避難所が必要なので	継続 ・避難所兼スポーツのできる大型施設があると安心できる⇒ 要望
○要援護者の避難体制づくり	・各自治会が要援護者の名簿をもとに人数や状況を収集する訓練を実施	・避難体制づくりを明確化 ・隣近所の雪かきは支えあいで行っている	・身近な要援護の人だけを支援しているだけなので	継続 ・新飯田地区は防災無線が聞こえない ・隣接市(三条・燕・加茂)との協力体制が必要
○地域ぐるみで防犯に取	・交通安全協会による登校時	・自主防災会の避難訓練には、地	・事件などもなく、安心安全に暮ら	

<p>り組む(子どもの安全・見守りも含めて)</p> <p>○防犯面からの環境整備を図るための検討を続ける</p>	<p>の街頭指導(春・秋) ・自治協議会長、青少協による防犯パトロール</p> <p>・公園維持管理協議会が公園の整備、トイレの清掃活動(15年程、月1回活動)</p>	<p>域で声を掛けあって参加 ・リアカーを整備しての訓練</p> <p>・小川もあり、メダカもいる誇れる公園 ・冬はかまくらづくりやキャンドルなどのイベント会場になる</p>	<p>せる地域にしたいので</p> <p>・公園の環境整備もされ、きれいで気持ち良い</p>	<p>継続</p> <p>継続</p>
---	--	---	--	---------------------

2. 一人ひとりで違うことを分かりあおう				
推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
<p>○世代・立場の異なる人同士と一緒に学ぶ・遊ぶ機会として、勉強会・ワークショップ・講演会等を企画する</p> <p>○地域の人が集まる場をつくり、お互いを知る機会を増やす</p>	<p>・ウォーキング、コンサート、スキー教室、カーリング教室、文化講演会、ピラティスヨガ、小学校地区合同運動会、ソフトボール大会、カレンダーづくり、写真コンテスト、自主防災訓練、アロママッサージ、キャンドルづくり、読み聞かせ、ふるさとキャンプ(小学校で)、伝統芸能継承等々</p> <p>・保健会による世代間交流、ふれあい茶の間交流、乳幼児をもつママたち交流 ・敬老会では地域住民による演劇を予定 ・新飯田祭り ・老人クラブ(2クラブ)活動も</p>	<p>・活動の強化により、各世代の活性化が図られている</p> <p>・保健会の世代間交流は、地域の高齢者と子供たちが遊ぶついで参加者は楽しみにしている ・地域の繋がりやふれあいが強化されている</p>	<p>・地域の世代間のつながりが深まっているので</p> <p>・地域の世代間のつながりが深まっているので</p>	<p>継続</p> <p>継続</p> <p>・誰もが気軽に集まれる場が必要 空き家の活用はできないか</p>

	活発			
--	----	--	--	--

3. みんなの「力」が発揮できる地域にしよう

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○高齢者の知恵を、子どもたちへ伝承する	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流で、昔遊びや笹団子づくり等をおして、高齢者の知恵を教える ・芸能伝承の会(芸能教室) ・新飯田の歴史をまとめた本がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が豊かになった ・大人が一生懸命になった ・地域の人たちがみんな顔見知り 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流の場が引き続きあると良い ・低学年と高学年など、対象別にできると良い 	継続
○地域の人の「経験・力」を生かせるよう工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・スキー教室でスキー授業 ・ふるさとキャンプでテントの設営と調理を体験 ・笛、太鼓の伝承 ・大名行列 ・子供みこし、天神様、地藏様などの祭り ・農業体験 ・みそづくり体験 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が豊かになる ・関わった人同士が自然に挨拶をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・意識して行うことも大切なので 	継続

< 第2回 >

○実施日時:平成 26 年 9 月 8 日(月)19:00~21:00

○会場:新飯田地域生活センター

○参加人数: 27 名(4 グループ)

新飯田地区の今後の地域課題は？	現在の活動の修正や今後必要な活動は？
<ul style="list-style-type: none"> ・交通機関(バス等の交通手段やスーパー、お店が減ってきている、高齢化によって交通手段が心配) ・茶の間の参加者が減少 ・茶の間の世話人を引き継ぐ人がいない ・茶の間に通う手段がない ・保健会の会員数が減ってきている(行事ができなくなっている) ・農村部の後継者不足 ・地元の開業医がなくなる ・子供がいないと行事への参加が少なくなる傾向 ・年代によっては行事参加への積極性が欠けてきた ・未満児保育、学童保育がない ・児童数が減少し、小学校がなくなるかも ・自主防災(避難所は安全なのか、障がい者や高齢者のための避難所は?) ・防災無線が聞こえない地域がある ・防犯(こども 110 番等が少ない) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新飯田だけでなく広範囲で考えなければいけない ・リーダーを育成する ・高齢者が地域を支え、いつまでも元気に過ごせるような対策が必要 ・空き家を活用した集まれる場づくり ・家族単位の交流だが、もっと世代を超えての交流が良いのでは ・みんなで整備している公園の活用を検討する(人が集まり楽しいことをする!) ・他地区から人が入ってきたり、大学で家を離れた子供が帰ってきたいする魅力ある新飯田づくり ・産み、育てやすい新飯田にしたい ・学校の空き教室、学校近くの空き家、地域の集会所を活用して、高齢者と子供たちが過ごすような場所が良いのでは ・要援護者を支える仕組みづくり (班長による見守りなどの訓練、きめの細かい防災訓練、細かい話し合い、障がい者や高齢者を対象としたアンケートの実施等) ・避難所の再検討が必要 ・自治会単位での話し合いが必要 ・子供たちが駆け込める場所が必要 (こども 110 番の家などをみんなが知る、理解者を増やす、ステッカーをつくり周知) ・防災無線で下校時の放送を流し、地域住民が見守るのはどうか

<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの高齢化(若い人が入らない、活動が見えてこない) ・高齢者一人暮らしの世帯の増加 (火災、孤独死、認知症などが心配) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を紹介して周知し、メンバーを増やす (一覧表を作成しPR) ・一人暮らし高齢者のゴミ出しや見守りが必要 ・徘徊等を地域にオープンにして見守りに協力してもらう
<p>新飯田地区の次期計画スローガン：笑顔いっぱい「おたかい様らて」と 心が通いあう新飯田</p>	

茨曾根地区 地域福祉座談会

【実施概要】

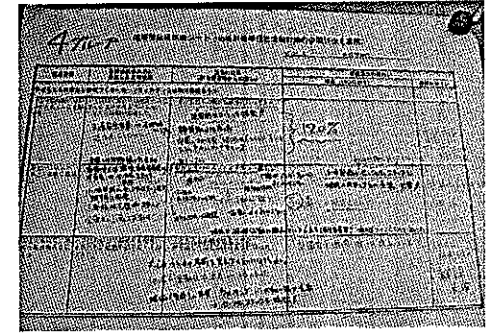
<第1回>

- 実施日時:平成 26 年 6 月 5 日(木) 19:00~21:00
- 会場:茨曾根地域生活センター
- 参加人数:25 名(4 グループ)

座談会の様子



成果物



【第1回:現計画の振り返り(評価)を抜粋】

1. 高齢者の楽しい地域づくり

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
① 老人クラブの活動を充実させる、老人クラブを増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・3 地区にクラブができていないので何とか進めたい ・庚なし~だいが前に解散 ・東萱場は元気会がある(月 1 回) ・清水、上茨~かいろう会あり ・道湯、新村~老人会あり ・下茨~五九朗会に改名 ・畑づくり、神社清掃、日帰り旅行、収穫祭等 活発に活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめてくれるリーダーが不足している ・リーダーを増やす必要がある ・リーダーは交代していないが、補助する人がいる(役員体制) ・役員は負担が大きく、なり手がいない ・補助金申請等の手続きが厄介 ・会員が減少(70 前は入らない) ・年をとっても仕事がある ・今の会員は熟した老人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持しながら老人クラブの活動を充実させる ・仲間づくり、老人クラブの予備軍をつくる ・下茨(寄日会)の仲間づくりから発展させる 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の充実を図る
② 地域の茶の間をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・下茨地域で茶の間を開催することができた ・庚なし~グループで活動している 	<ul style="list-style-type: none"> ・清水、上茨、丸湯、東萱場、道湯、新村の茶の間は順調に開催されている ・庚~中途半端会 ・清水は農休日をあてているため、 	<ul style="list-style-type: none"> ・茶の間を継続して、集まる場所があったほうが良い ・集まりがあると情報交換の場になる 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成したが継続 <p>継続</p>
地域の茶の間をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・70~80 代は畑仕事 			継続

<p>③ 閉じこもっている人を誘い出す</p>	<p>80代後半～茶の間に行く</p> <p>・活発に動いている地区とやれない地区がある</p> <p>・90歳以上になると出れない人が多い</p> <p>～地域の人が見に行くこともある(東萱場)</p>	<p>参加しやすい</p> <p>・女性が多い、男性は酒が無いとだめ</p> <p>・80代が多い～果樹どころの特徴で、家族の戦力になっている役割が生きがい</p> <p>・会うのが楽しみ</p> <p>・全サロンを茶曾根で集まってもよい</p> <p>・新しいことを取り入れたい</p> <p>・補助金申請手続きが面倒</p> <p>・同級会と同じ、一度足を踏み入れるとよい</p> <p>・何度も声をかけ誘い出しましょう</p>	<p>・自治会長の協力があるので、続けられる～場所、活動の提案</p> <p>・楽しくないと!</p> <p>・小単位⇒大単位を作っていく</p> <p>・自宅に「元気かね?」と訪問するような事業があっても良いのでは!</p> <p>・今、訪問しているのは民生委員さんくらい</p> <p>・民生委員さんに協力できる人がいても良いのでは</p>	<p>・シフトチェンジ</p> <p>継続</p> <p>・高齢者は今後も増えるため</p>
-------------------------	--	--	--	---

2. こどもたちの安全な地域づくり ～セーフティスタッフ活動に取り組もう～

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の割合	継続・終了
<p>① 下校時に合わせて大人が気を配る</p>	<p>・下校時においては地区の皆さんが気にするようになった</p> <p>・ながら活動が定着した</p> <p>・各地域から2名ずつ交通安</p>	<p>・子どもたちの挨拶も活発になってきた</p> <p>・茶曾根ではとても活発</p> <p>・顔見知りになった</p> <p>・卒業してからも地域の人たちが</p>	<p>・120%</p> <p>・学校で知らない人に声をかけら</p>	<p>継続</p> <p>・今後も引き続き取り組む</p>

<p>② セーフティスタッフ活動に取り組む</p>	<p>全委員を選出した</p> <p>・白南中では環境安全委員会の委員長がセーフティスタッフを兼務(年1~2回)</p> <p>・小学校は3役がスタッフ</p> <p>・小中学校のセーフティスタッフ会議が7月に開かれている</p> <p>・全市でのミーティングもあり</p> <p>・危険ヶ所の確認 ~コミ協のものとは別</p>	<p>子どもたちに声かけができています</p> <p>・子ども110番の家~各集落に2軒くらい</p> <p>・6年前は挨拶が盛んだったが、今はあまりない</p> <p>・地域では6名のセーフティスタッフが誕生した~増やしたい</p> <p>・オレンジのジャンパーで活動中</p> <p>・携帯も活用</p> <p>・学校と地域の活動は別々で、お互いよくわからない</p> <p>・地域で福祉活動に関わっている人たち(民生委員等)相談できる人を知りたい</p>	<p>れても話さないように指導があるのかも…</p> <p>・以前のように挨拶するようになってほしい</p> <p>・大人が興味を持っていないのでは</p> <p>・子どもが外に出ない~忙しい</p> <p>・学校と地域のセーフティスタッフとの交流、連携が必要</p> <p>・学校開放~グラウンド使用、畑作り、田植え、草刈り、夏祭り等、学校とのつながりがあると良い</p> <p>~学校からの要望があれば…</p> <p>・「茶室根応援団」⇒時間的な面で子どもたちと交流できない</p>	<p>継続</p>
<p>③ 子どもにも、地区の取り組みを伝える</p>	<p>・学校の朝会で顔見せをやり、子どもたちに活動を伝えることができた</p>	<p>・子どもたちが顔を覚えてきた</p> <p>・声を出して話しかけるようになった</p> <p>・大人も子どもの名前を覚えるくらいになると良い</p> <p>・地域の運動会等、交流が少なくなった</p> <p>・地域(学校)の行事・ウォーキング、バーベキュー等で交流。セーフティスタッフも活躍</p> <p>・イベントは多いが(下茨)子どもはゲームをしている</p> <p>・子どもがいけない所もある</p>	<p>・交通安全週間は伝わっている?</p> <p>・屋号など大人の中でもわからない事がある。</p> <p>・屋号の標記がほしい</p> <p>・子どもたちがなじむには、親とその上の世代の皆さんが一体化したらどうか(事業等)</p> <p>・27年度に児童館~高齢者もいっしょに「参加型イベント」を実施したい</p>	<p>継続</p>

<第2回>

○実施日時:平成26年8月28日(木)19:00~21:00

○会場:茨曾根地域生活センター

○参加人数: 18名(3グループ)

茨曾根地区の今後の地域課題は？	現在の活動の修正や今後必要な活動は？
<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの不在 ・老人クラブの活性化 ・全地区に老人クラブを ・住民同士の交流がもっと必要では ・子供と大人が顔を知らない (あいさつをしない理由) ・仲間づくりができない人(身体的に不自由な人など) ・茶の間が利用できる情報が不足 ・セーフティスタッフ活動の周知不足 ・移動手段が乏しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの育成 ・名称の変更 ・庚と東萱場に ・老人クラブに限らず、サロンやグループなどの自主的な会を活用する ・集落を超えた交流 ・ウォーキング&バーベキューの定着化 ・顔の見える関係をつくる(多世代交流、地域の祭りにPRの工夫やPTAの協力、茨曾根応援団の活用など) ・誰もが集まれる大きな集まり(イベント)を行う ・お茶の間だより、他のお茶の間との情報交換、活用できる資源の仲介役など ・学校と地域のつながりが重要 ・防災無線の有効活用(下校時の放送) ・全自治会で活動の周知とスタッフ募集 ・地区の危険箇所の把握
<p>茨曾根地区の次期計画スローガン:「笑顔がつどう明るい茨曾根」</p>	

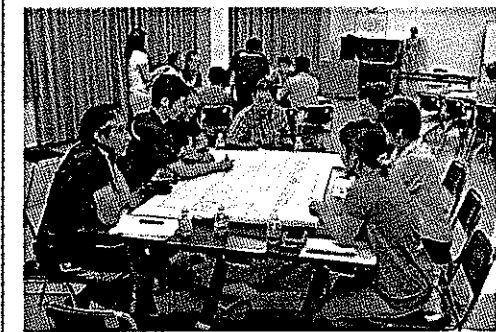
庄瀬地区 地域福祉座談会

【実施概要】

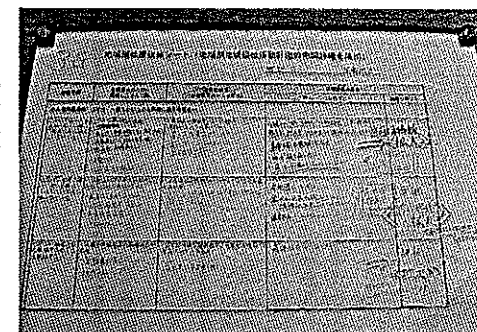
<第1回>

- 実施日時:平成 26 年 7 月 4 日(金)19:00~21:00
- 会場:庄瀬地域生活センター
- 参加人数:18 名(3グループ)

座談会の様子



成果物



【第1回:現計画の振り返り(評価)を抜粋】

1. “みんなの居場所”づくり ～誰もがいつでも気軽に集える場を～

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○歩いて来られる場所に集いの場(地域の茶の間等)をつくる	・今ある茶の間の開催 (菱潟でお茶の間、次郎門小屋の茶の間、親友会、新道島クラブ、優心、じじ会等々)	・参加者が固定化されつつあり、女性ばかりで、高齢化している ・若い人の集まりがない	・市がなくなり、集まる場所を求めているのではないが	継続《拡大》 ・集会場を有効活用 ・優心の活用 ・小学校「ひまわりサロン」開催予定(子育て中の親世代)
○男性・女性・障がい者・高齢者・子ども…の交流の機会をつくる	・自治会、子ども会中心のお楽しみ会を実施(8月) ・夏祭り(子供みこし)、しなの園祭り、音楽会、お寺で音楽会、ママさんバレー等	・子ども、障がい者、高齢者等、区別なく地域住民として、参加出来ている	・祭りなどで交流の機会はあるが、青年団や運動会がなくなり、地域行事が少なくなった	継続《若者世代へ》 ・若者世代が「中心となり、地域をかけていく必要がある
○忙しい地域からも参加できる工夫を検討する ○閉じこもってしまう方々	・桜まつりやライトアップ ・庄瀬農村祭り ・老人クラブ健康病院班会の実施	・夜も桜鑑賞ができる ・写真コンテストがある ・庄瀬地区内で老人会が2班ある	・農休日がなくなり忙しいが、整地をして桜をもっと植え、盛り上げたい ・これから高齢者の一人暮らしや高齢者	継続《拡大》

<p>を既存の事業(見守り事業、安否確認等)で集いの場に誘う、声かけする、情報を伝える</p> <p>○集まる機会を増やして、情報交換の機会とする</p> <p>○集いの場をボランティア活動の場とする</p>	<p>・民生委員の見守り活動の実施</p> <p>・自治会の集会場で高齢者が集まる機会はあるが、なくなった行事や会も多い(運動会、婦人会、老人会、子ども会等)</p> <p>・取り組むことができなかった</p> <p>・コミ協の環境部会では、球根植え、クリーン作戦、空き缶ひろい(白南中学)</p>	<p>が、会員が減少</p> <p>・農作業もあり、閉じこもっている人は少ないのでは</p> <p>・今は地域で意識して声かけをしていない</p> <p>・なくなったものもあるが、農村公園祭りや桜まつり、保全会の花植えがある</p> <p>・個人でボランティア活動をしている人はいる</p>	<p>のみの世帯が増えるので声掛けは必要</p> <p>・地域交流や世代交流は必要なので</p> <p>・声掛け、安否確認など、ボランティア活動は増えていないので(ボランティアを増やしたい)</p>	<p>継続</p> <p>継続</p> <p>継続</p>
--	---	---	---	-------------------------------

2. 安全で安心な地域づくり				
推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
<p>○子どもたちの下校時の安全を地域で守る</p> <p>○平日の日中、庄瀬に残る人たちでの支え合う体制を話し合い、災害時に備えられるようにする</p>	<p>・登下校時の声かけ見守りの実施</p> <p>・小学校でも年間をとおしてあいさつ運動を実施</p> <p>・民生委員による運動</p> <p>・子どもたちの見守りのため、自転車についていく</p> <p>・災害時での連絡方法</p> <p>・高齢者への民生委員、自治会による見守り、訪問活動</p> <p>・早期に自主防災組織を結成(24自治会で毎年避難訓練)</p>	<p>・最初のころは恥ずかしそうだったが、子どもから笑顔で返事が返ってくるようになった</p> <p>・1自治会の世帯数も少なく、比較的目が行き届いている</p> <p>・災害発生したとき、安否確認の方法として、自治会と協力、各携帯電話番号記入書に参加依頼中⇒できあがったら各家庭に配布予定</p>	<p>・子どもは減少している(子どものいない自治会は3自治会)</p> <p>・現在は個人の力に頼っているところが大きい</p> <p>・さまざまな立場からの見守りをさらに広げる必要がある(組織的な見守りへ)</p> <p>・高齢者同士が声を掛けあえる地域にしなければいけない(高齢者同士の見守り、安否確認等)</p>	<p>継続</p> <p>継続</p>

* 自治会長と民生委員の連携が弱く、わからないことが多い

<第2回>

○実施日時:平成 26 年 8 月 20 日(水)19:00~21:00

○会場:庄瀬地域生活センター

○参加人数: 22 名(2 グループ)

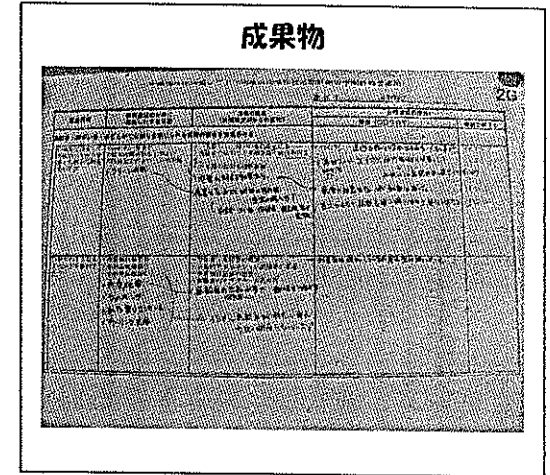
庄瀬地区の今後の地域課題は？	現在の活動の修正や今後必要な活動は？
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が高い ・敬老会の参加が少ない ・老人会の会員減少 ・生産年齢人口が減少 ・若い世帯が他地区へ流出(働く場、企業がない) ・空き家が増えている(空き家率 8.7%) ・一人暮らし高齢者が増加 ・商店も少なくなり、買い物できる場所が少なくなった ・買い物は周辺地域に行かなければいけない(白根、加茂、小須戸) ・推進目標が住民に伝わっていない(管理していく機関がなかった) ・民生委員等のない手がいけない ・自治会長の負担が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者が支える側へ(活躍できる場や会をつくる) ・隣近所で互いに気にかけて、見守りができる体制を作ることが必要 ・リーダーシップをとる人、元気な高齢者の活躍 ・新しいカタチの老人会の構想～集う場を ・婚活や若い世代の定着化を図る活動が必要 ・空き家を改修し、お茶の間へ！ ・高齢者一人暮らしでも買い物ができ、安心して生活できる体制が必要 ・推進目標を管理していく機関が必要 ・任期等の見直しも必要ではないか
<p>庄瀬地区の次期計画スローガン: 声をかけ合う 話し合う 助け合う 沢山の合(愛)がある 庄瀬</p>	

小林地区 地域福祉座談会

【実施概要】

<第1回>

- 実施日時：平成26年4月19日（土）16：00～18：00
- 会場：小林地域生活センター
- 参加人数：29名（4グループ）



【第1回：現計画の振り返り（評価）を抜粋】

1. 高齢者・障がい者・子どもがつながりを感じられる交流の機会を充実させる				
推進目標	目標達成のために実施した 主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
<ul style="list-style-type: none"> ○自治会での目的や年齢にこだわらない定期的な集まりを開催する ○高齢者に限定したお茶の間だけでなく、若い世代を含めて集まれる場を実施する ○単発でなくその後の繋がりを感じられる活動をする ○祭りのようなイベントを検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会 ・春秋の祭礼 ・防災会 ・子ども見守り隊 ・防犯パトロール ・運動会、卓球大会 ・カーリング大会 ・文化祭、敬老会 ・ひな祭りコンサート ・地域の茶の間 ・ふれあい昼食会 ・歳末訪問活動等声掛け 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションがとれるようになった ・不審者等、子どもの事故を未然に防いでいる ・防災会の組織が強化された ・空き巣など効果があった ・親が一生懸命でイベントをとおして住民どうしの繋がりが生まれている ・地域の茶の間の自治会単位で広がる ・ボランティア意識が高まる ・健康への意識が高まる ・ふれあい昼食会は一人暮らし高齢者や障がい者に定着した 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の場は情報交換の場でもあり、住民同士のコミュニケーションを活発にし、つながりを深めるので 	活動は継続

2. 地区の皆が地域活動情報を知る				
推進目標	目標達成のために実施した 主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
<p>○チラシを配布するだけでなく声をかけ、直接一生涯懸命誘う！！</p> <p>○地区の各団体の役員になることで地区活動を知ることができるため、役員を増やすことを検討する</p> <p>○地区住民も積極的に情報を得る努力をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の声掛け訪問 ・コミ協の部会、専門班の組織化 ・自治会長協議会との連携活動 ・コミ協だよりの発行回数を増やし、写真など見やすくした ・地域の関係団体と災害時の検討を重ねた 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員を軸にして、地域の中で定着している ・小林コミ協で学童保育事業をスタートし、ボランティアが集まる ・自治会長協議会の代表をコミ協理事とし、情報・運動方針の共有を図る ・地域住民に読まれている ・町内独自の課題を共有することができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から情報が住民に届くことは災害時にも有効なので ・情報が届かないと活動に参加できないので 	活動は継続

<第2回>

○実施日時：平成26年6月26日（木）19：00～21：00

○会場：小林地域生活センター

○参加人数：16名（3グループ）

小林地区の今後の地域課題は？	現在の活動の修正や今後必要な活動は？
<ul style="list-style-type: none"> ・子供が少なく、子供会が成立しない ・兄弟が少なかったり、一人っ子だったりで、躰や社会性が育たない ・登下校時に一人になる場所がある ・個人情報重視すぎて、障がい者・児がどこにいるのか分からない ・障がい者が施設に入り、住民との交流が一層減る ・通院や買い物が大変な高齢者が増える ・一人暮らし高齢者が多くなり、話し相手がおらず、認知症患者が増える ・交通事故の被害だけでなく、加害者となる高齢者が増える 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供会の地域での活動がわかると良い ・こぼっ子クラブの運営に地域の大人が協力し、生活の基本や社会規範を教える ・子供の通学時に合わせて犬の散歩をする ・退職された方々に協力頂き、子供たちの見守り活動に参加してもらう ・粗仕事をしている人から声をかけてもらう ・話しやすい雰囲気をつくる (配布物の際にひと声かける) ・世代間+障がい者も交えた交流事業 (地域の中で障がいに対する理解を得、顔の見える関係づくりを構築する) ・施設と地域の交流事業 ・曜日を決めて、乗り合わせによる買物支援 (有償ボランティアの育成が必要～公民館事業で人材育成ができないか) ・ウォーキング等、自然に参加できるような健康づくり ・近所の見守りや声掛けが必要 ・認知症になった時に近所に伝え、協力を得ることができるようになる ・男性が集まりに出でこないので、目玉を考える (リハビリ、マッサージ、軽い運動、女性が誘う等) ・男性の茶の間をつくる ・趣味のサークルなどで交流の輪を広げる(介護予防になる)
<p>小林地区の次期計画スローガン： 声かけ合い 心をつなぐ 小林地区</p>	

臼井地区 地域福祉座談会

【実施概要】

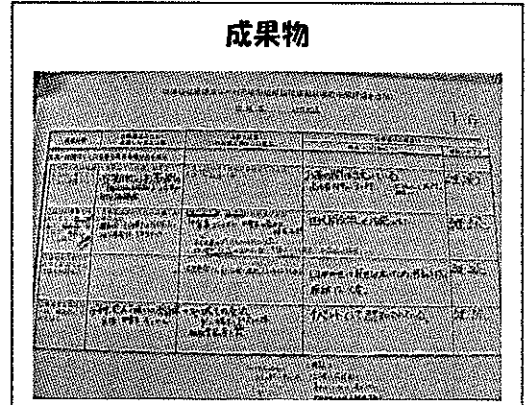
<第1回>

- 実施日時:平成 26 年 6 月 10 日(火)19:00~21:00
- 会場:臼井地域生活センター
- 参加人数:15 名(2グループ)

座談会の様子



成果物



【第1回:現計画の振り返り(評価)を抜粋】

1. 交流・仲間づくりができる集まる場がある地区

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○地区の既存組織を大切に育てるとともに連携する	・複数回での会議、集まり ・定期的なお茶の間活動	・2 か月に 1 回のコミ協総務委員会での発言、参加 ・住民の交流の場となっている(3 か所)	・世話人と会場に課題があるが、住民の交流の場なので	継続 ・世話人と会場が課題
○既存の事業を活発にする(狸の唄入り、敬老会、祖父母会、運動会、子ども祭り)	・各種事業達成のための会議、部会等の実施 ・運動会、子ども祭りはなくなった ・祖父母会はできなかった	・狸の唄入り:写真コンテスト、中学生の参加がある ・敬老会:子どもたちのダンスあり、世代交流が図れた ・棒おどい(伝統芸能)を中学校の体育祭で披露	・世代交流は活発になったが、地域全体の交流イベントがあったほうがいい	継続 ・地域全体の交流イベントがほしい
○送迎も含めてだれでも参加できる方法を検討する	・敬老会は自治会で送迎しているところもある	・	・臼井地区は範囲が広いので、移動手段の検討は必要	継続 ・移動手段がないとイベントにも参加できない

○事業者も地区の一員、積極的に交流を図る	・テイラすいの感謝祭(食推、中学生から協力) ・中学生と合同防災訓練	・施設と地域の交流が図れる	・イベントとして認識されている	継続
----------------------	---------------------------------------	---------------	-----------------	----

2. ボランティアや地区活動を理解し関心をもてる地区

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○あいさつ運動を実施する(希薄になった人間関係を取り戻すためにも)	・標語、ポスター募集 ・のほり旗の作成 ・月2回、小中学校の校門前であいさつ運動(地区社協、コミ協、ボランティア)	・優良作品の選定、表彰 ・標語、ポスターの印刷、配布 ・のほり旗の設置	・充実した活動になっている	継続 ・今後も引き続き取り組む
○ボランティアや地区活動に一度でも強制でなく自主的、積極的に参加する	・あいさつ運動への参加 ・食育・生活指導を行っている(食推) ・福祉施設でのボランティア活動、感謝祭の開催、花植え、カーリング	・街頭での立会、指導 ・声掛けをすれば相応に参加協力してくれるボランティアが多い		継続 ・取り組みは継続
○行事と活動の情報提供とPRに努力する	・カレンダーの作成 ・コミ協だより(全戸配布)	・学校行事等を含む毎月カレンダーを作成(標語とポスターを入れてある)	・各部会の活動がわかる写真を活用して地域の情報を発信していく(活用できるものを！)	継続

<第2回>

○実施日時:平成26年8月19日(火)19:00~21:00

○会場:臼井地域生活センター

○参加人数:16名(2グループ)

臼井地区の今後の地域課題は？	現在の活動の修正や今後必要な活動は？
<ul style="list-style-type: none"> ・主となる組織がないと行事や事業が続かない ・中心となって運営していく人、世話人、リーダー的な人が必要 ・こどもは挨拶しているが、大人は挨拶をしない人が多いのでは ・お茶の間は女性が中心 ・高齢者の一人暮らし世帯が増えていくことで心配なことがある (緊急連絡先がわからない、消費者被害など) ・個人情報保護がネックとなっていて、高齢者の一人暮らし世帯などの見守りが十分にできない ・地区が広いので情報の伝達が難しい ・子育て世代の交流の場がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流を盛り上げていこう！ ・既存事業を更に活発にしながら多世代交流のできるような新しい事業も作りたい ・各団体が協力しあうことで、より良いものができる ・挨拶運動を見守りにつなげていく ・挨拶運動を地区全体へ広める ・子供の登下校の見守り、一斉放送(防災無線を有効活用) ・初めての人も気軽に集まれる会がいい ・農閑期に集まれるように ・男性にも来て欲しい ・ ・支え合い補助金の申請中 ・商店街の空き店舗の活用(交流の拠点とできないか)
<p>臼井地区の次期計画スローガン:「やろってほ！」笑顔で仲良く臼井地区</p>	

*継続したい推進目標「①交流・仲間づくりができる場がある地区」の小目標にある「既存事業を活発にする(狸の囃入り、敬老会、祖父母会、運動会、子ども祭り)」は、「既存事業を活発にする(狸の囃入り、敬老会、祖父母会、運動会、子ども祭り)」とする。

大郷地区 地域福祉座談会

【実施概要】

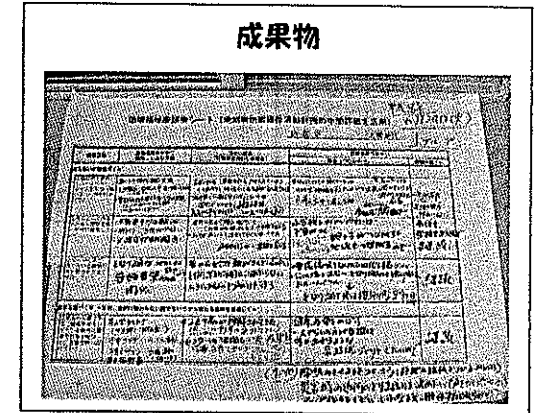
<第1回>

- 実施日時:平成 26 年 6 月 24 日(火)19:00~21:00
- 会場:大郷地区地域生活センター
- 参加人数:8名(1グループ)

座談会の様子



成果物



【第1回:現計画の振り返り(評価)を抜粋】

1. 支えあいの関係づくり

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○隣近所と普段からコミュニケーションを持つ(あいさつ声掛けをする)	・あいさつ運動の強化週間の実施(大鷲小、白根北中) ・昔ながらの住民同士の挨拶は実施	・学校側も力を入れており、生徒もはっきりと話してくれるようになり、効果は上がっている	・永遠のテーマであり、これからも地域を支えていくうえで、挨拶は基本 ・挨拶は続いているが、近所の関係は希薄化 ・まだ不十分	継続 ・大人から積極的に子供に声をかけ、子供の目線で挨拶を
○昔ながらの声を掛け合う関係を若い世代に継承していく	・大鷲夜祭は盛大 ・村祭りは子供が少なくない運営が大変 ・しめ縄づくりで世代間交流	・多世代が交流する祭りは、夜祭は盛大で、子どもと親が大勢集まるが、一方で子供が減少し、寂しくなった村祭り	・親と子がつながることで、地域もつながる~多世代交流は大切 ・地域交流イベントなどを実施しながら声を掛け合う関係を伝えなければいけないので	継続 ・小学校とタイアップすることが大切
○せっかくまだ残っている隣組の良い部分をうまく伸ばしていく	・最近では冠婚葬祭時のみの関係	・隣組の活用は見当たらない	・隣組を活用して緩やかな見守りを実施したい	継続

2. 集まる場づくり～年代、目的に関わらない誰でもいつでも寄れる場所を目指して				
推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○情報の宝庫である「地域生活センター」を拠点に情報や行事を発信し、各集会場へ広げていく	・茶の間の立ち上げ(下大郷1、郷の会) ・学童クラブ、サークル活動、子育てサロン、コミ協行事	・学童クラブや子育てサロン等でもセンターを活用 ・行事も盛りだくさんでコミ協が理解されてきた	・健康寿命を延ばす ・一人暮らしの方が外に出られるような集まる場づくりをしたい	継続

<その他>

- ・除雪の仕組みをつくろう(堆肥の機会を使った取り組み)
- ・災害時の近所との声掛けあう仕組みをつくりたい
- ・災害マップをつくりたい(小学校、肢体不自由児父母の会)

<第2回>

- 実施日時:平成26年8月7日(木)19:00～21:00
- 会場:大郷地区地域生活センター
- 参加人数:9名(1グループ)

大郷地区の今後の地域課題は?	現在の活動の修正や今後必要な活動は?
<p>・近隣との関係が希薄化するのが心配</p> <p>・災害時の対応、仕組みが不十分</p> <p>* 推進目標に「安心して暮らせる地域づくり」を追加</p>	<p>・回覧板や配布物は必ず声をかけて(回覧板の工夫)</p> <p>①デザイン</p> <p>②キャッチフレーズ 「手渡して渡そうわたしたちの回覧板」など</p> <p>③季節ごとの標語(こどもたちに募集) 「熱中症に気を付けよう!」 「夕暮れのライトは早めに!」など</p> <p>・お弁当配達、カイロ配布、おせち配食に子供たちからのメッセージを入れたり、子供達と一緒に配ったりできないか(自治会単位で考えられないか)</p> <p>・災害時のマニュアルづくりや地域福祉マップ作り</p> <p>・防犯対策</p>

大郷地区の次期計画スローガン:

なじらね～?

と声をかけあう大郷地区

*継続したい推進目標で「①支え合いの関係づくり」の小目標を下記のように変更する

- みんなが大郷地区のことや活動に関心や興味を持つ
- コミ協、地区社協、保健会、公民館など地区の活動に積極的に参加する
- 忙しいのはみんな同じ!時間はつくるもの!!



(統合) ○みんなが大郷地区のことや活動に関心や興味を持ち、地区の活動を理解し積極的に参加する

(削除) ○忙しいのはみんな同じ!時間はつくるもの!!

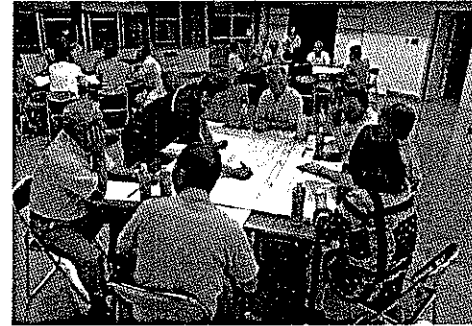
鷺巻地区 地域福祉座談会

【実施概要】

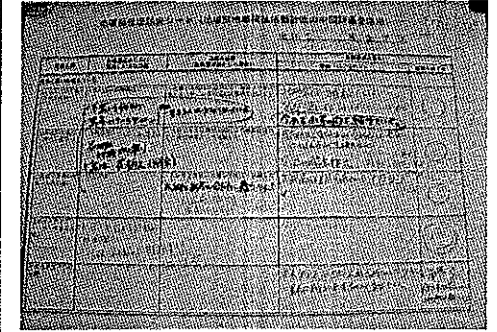
<第1回>

- 実施日時:平成26年6月12日(木)19:00~21:00
- 会場:鷺巻地域生活センター
- 参加人数:18名(3グループ)

座談会の様子



成果物



【第1回:現計画の振り返り(評価)を抜粋】

1. 集落に集いの場をつくる

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○各集会所を拠点とする体制づくり	・茶の間の新規開設(中鷺の木地区)	・「はたちの会」(中鷺の木地区で毎月20日開催)は、毎回10名以上参加し、定着している	・中鷺の木地区だけでなく、他の地区にも広がってほしいので	継続 ・参加者が女性のみ ・各集落につくるにはリーダーが必要
○多世代交流の(機会)場をつくる	・大鷺夜祭り ・桜町集会所を利用したサークル活動あり(卓球、カラオケ等) ・桜灯籠祭り ・公民館事業(調理教室) ・植栽活動 ・鷺巻地区保全会の立ち上げ	・小学校と連携し、フラスバンドやおさこいソーラン、伝統芸能(宮のほり囃子)や北中の応援団にも協力してもらい、多彩な内容となった ・地域の環境整備活動(26年度からは鷺巻全体に)で、地域の繋がりや子どもの顔が見える	・新しい世代交流活動ができており、地域全体で盛り上がるので ・小さい子供が集まる行事は自然と他の世代も集まる ⇒交流の場をつくる	継続

<p>○既存の事業の拡充(お茶の間)</p>	<p>・下鷺の木桜町、鷺巻いきいきサロン～集まる人が少なくなっている</p>		<p>・今ある茶の間を継続していくことが大切なので</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察や社協等から講師として来てもらい、勉強会等をやれたら ・大郷と鷺巻で合同に行うことも必要では(参加者を増やすと集まる人も増える)
<p>○ボランティアリーダーの育成を図る</p>	<p>・</p>	<p>・</p>	<p>・リーダーがいけない</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを育てる仕組みが必要(行政、社協、コミ協に期待！)
<p>○老人クラブとの協働</p>	<p>・集落ごとの老人クラブはないが、地区のクラブはあるものの、活動状況がよくわからない</p>	<p>・</p>	<p>・</p>	<p>継続</p> <p>終了</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブが減少し、一緒に何かを行うのは難しい

<第2回>

○実施日時:平成 26 年 9 月 4 日(木)19:00~21:00

○会場:鷺巻地域生活センター

○参加人数:15 名(2 グループ)

鷺巻地区の今後の地域課題は？	現在の活動の修正や今後必要な活動は？
<ul style="list-style-type: none"> ・住民が交流する場が少ない ・リーダーが高齢化 ・健康寿命を延ばす活動が必要 ・交通の便が悪く、受診や買い物に行けない人が増える ・高齢者の一人暮らしが増え、見守り体制が必要になる ・空き家が増える(町部と違って活用しにくい) ・農村といえども孤独死が増える ・子供が少ない、独身者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・はたちの会をモデルにする(リーダーや世話人がいない運営) ・立ち上げて定着化させる ・「茶の間」の縛りが無い方が良い ・楽しめる企画を考える ・リーダーの養成(女性) ・子供を集めることで、親や孫親も集まる ・白根健生病院の班会活動を利用する(拡大～西笠巻、西笠巻新田、桜町等) ・移動販売の誘致 ・自治会ごとの集会所を大いに活用し、集まることから始めよう ～集まった時に、見守りや孤独死、交通手段などの話をし、住民同士で共有することから始まる(気楽にやれることから)
<p>鷺巻地区の次期計画スローガン: 全員集合！ 鷺巻地区 笑顔の和を広げよう 鷺巻地区</p>	

根岸地区 地域福祉座談会

【実施概要】

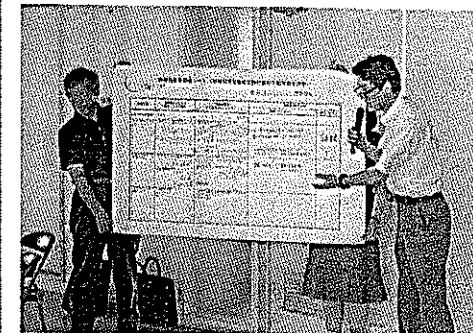
<第1回>

- 実施日時:平成 26 年 7 月 24 日(木) 13:30~15:30
- 会場:根岸地域生活センター
- 参加人数:19 名(3グループ)

座談会の様子



成果物



【第1回:現計画の振り返り(評価)を抜粋】

1. お茶の間を全地域につくろう

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○新規お茶の間を立ち上げる	<ul style="list-style-type: none"> ・新規のお茶の間は立ち上がらなかったが、「健康いきいきサロン」(年1回)を平成26年度に実施 ・11自治会中、茶の間活動があるのは9自治会程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規の茶の間は立ち上がらなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩いて行ける距離に茶の間が立ち上がってほしいので 	<p>継続</p> <p>目標にしたいところだが・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーや世話人が課題
○既存のお茶の間事業の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・根岸地区お茶の間交流会(年2回)を開催(大盛況) ・お茶の間ではないが、会員数は減少しつつあるものの、老人会活動は活発 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の自治会のお茶の間会の方たちと交流することができ、情報交流会の場を設けることができた ・自治会の総会でも、茶の間や交流会のPRをしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・茶の間も交流会も定着しているので、より充実させたいので 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶の間の情報が地域に伝わっていない(広報の工夫が必要) ・参加者の固定化や後継者が課題 ・お茶の間で世代間交流はほとんどない
○隣近所との協力体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・米づくり体験や白根伝統の踊り、 	<ul style="list-style-type: none"> ・これらの行事をとおして、顔がわか 	

<p>くり</p> <p>○趣味のサークル等をつくる</p> <p>○リーダーの育成を図る</p> <p>○地域で要援護者が取り残されないような体制づくりをする</p>	<p>米づくり 踊り あやめ祭りをはじめとした祭り</p> <p>・カーリング大会(根岸地域スポーツ振興会) ・ゲートボール大会 ・輪投げ大会 ・ひよこクラブ(休会中)</p> <p>・どのような方法で育成していくのが良いか今一つ見えな い ・全地区に老人クラブを立ち上げたかったが、うまくいかなかった</p> <p>・コミ協を通じ、各自治会において支援体制の明確化を図った ・自主防災組織の立ち上げ</p>	<p>伝承をとおり世代間交流ができた(白根風音頭)</p> <p>・地域の人の顔がわかるようになった ・顔なじみになり、来年もやろうという意欲があり、祭りの準備も協力が得られるようになった</p> <p>・大人と子供が一緒に行えることが世代間交流につながる ・子どもたちの話題作りになっている</p> <p>・リーダーとなると敬遠された</p> <p>・根岸地区困上訓練実施により、避難の際、各所危険箇所などの問題点が見えた ・地元の体制が確認できた ・ひまわりクラブの子どもたちも支援者になれる</p>	<p>るようになり、普段の生活でもつながるようになりたいので</p> <p>・年々参加者が増えている大会もあり、交流の場となっているので</p> <p>・人と人のつながりが薄くなっている～挨拶・声掛けから地域のつながりを！回覧板を届ける時も声掛けを</p> <p>・次世代につなげなければいけないので</p>	<p>継続</p> <p>継続</p> <p>・各大会の準備段階から子どもたちを参加させたい</p> <p>継続</p> <p>・老人会は必要だが、高齢になっても現役で農作業をしており、時間の余裕がない ・あいさつ運動からはじめては</p> <p>継続</p>
--	--	--	--	--

<第2回>

○実施日時:平成 26 年 8 月 22 日(金)13:30~15:30

○会場:根岸地域生活センター

○参加人数: 14 名(2グループ)

根岸地区の今後の地域課題は？	現在の活動の修正や今後必要な活動は？
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の交流 ・祭りを継続実施することで、住民同士のつながりができるのだが、少子化にともない役員のないうちなどがいなくなっている (ふるさと祭り、あやめまつり、北田中まつり、根岸まつり、中塩俵地藏祭りなど) ・茶の間のリーダーや世話人の育成が課題 ・茶の間は高齢者の参加ばかり ・地域情報が住民に伝わらない ・地域の高齢者が取り残されないように(要援護者に限らず) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操に多世代が参加 (あいさつをすることで、つながりが生まれ、体操により健康になる) ・登下校時の見守りで子供たちに声をかけ、コミュニケーションをとる ・地区集会場の活用 ・地区ごとの小単位での祭り ・北田中～集会場を開放し、全世帯対象の茶の間 ・子供、大人の垣根を無くした集まり ・楽しみ会の内容の工夫(得意分野の活用) ・ひまわりクラブとの祭りで地域の高齢者と交流 ・子供達に遊びを教えたり、一緒に遊んだり ・案内チラシや回覧板の工夫 ・気楽に集まれる場所づくり (ネーミングも含め、時代にあった閉じこもり予防、安否確認) 例:サロン・茶の間→○○カフェへ 畳→テーブル、椅子へ →活動を通じたリーダーの自然発生 (役員引継により、途切れない仕組みの構築) ・回覧板の見直し (直接手渡し、チラシの順番の工夫、内容によっては全戸配布、確認簿の添付等) ・ちょっとしたおせっかいが大切(心を開く人がいる、助け合いにつながる)
<p>根岸地区の次期計画スローガン: 明るく いきいき 根岸もん 明るく いきいき すこやか 根岸</p>	

大通地区 地域福祉座談会

【実施概要】

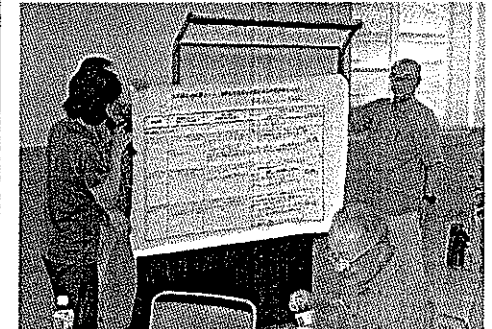
<第1回>

- 実施日時:平成 26 年 7 月 27 日(日) 13:30~15:30
- 会場:大通地域生活センター
- 参加人数:49 名(5 グループ)

座談会の様子



成果物



【第1回:現計画の振り返り(評価)を抜粋】

1. 地域で見守ろう子どもたち

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○学校と地域との協力体制をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員と学校間の会議の実施 ・老人クラブによる出前授業の実施 ・セーフティスタッフとの会議の実施 ・見守り隊が新たに結成され、セーフティスタッフと登下校の見守り活動を実施 ・青バト活動の実施 ・校区危険度マップを全戸配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・年 2 回の会議により情報交換 ・グリーン作戦の説明、昔遊びの指導、戦争体験授業の協力などで子どもたちの教育の一環を担っている ・「防犯リーダー養成講習会」及び「子供の体験型安全教室」講習に参加 ・地域の茶の間や老人会の集まりに子どもが参加し、中学生、小学生、保育園児と少しずつつながりを持っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子供たちの安全と世代間交流が図れるので ・見守り隊とセーフティスタッフを核にして、活動を充実させていく必要がある 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の人は知っているが、地域住民に周知されていない ・こどもたちも意図がわからずに集まりに参加している ・住民への周知が重要 ・学校が地域に近づいてくるのが大切 ・「ワンちゃんサークル」等をつくって、散歩のついでに子どもたちを見守るのはどうか
○隣近所との協力体制を	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練や日頃の連絡網を 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミ協新旧役員を含めて、コミ協 	<ul style="list-style-type: none"> ・要援護者はわかるが、今後、協力 	

<p>つくる</p> <p>○各種団体等の協働を図る</p> <p>○既存の事業の拡充</p> <p>○多世代交流の機会をつくる</p>	<p>使用しての協力体制の構築 (各自治会に連絡網あるが、訓練などで活用しているか不明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクションプラン学習会の実施 ・老人会の友愛活動 ・あいさつ運動を実施(小中学校) <p>・各自治会、子ども育成会、PTA、セーフティスタッフなどによる交通安全と見守りの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大通地域合同クリーン作戦実施 <p>・中学生と老人クラブ共同ゴミ拾い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶の間の拡充 ・「子育て講演会」(ゴミ協主催) <p>・大通夏祭りの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大通しクリエーションフェスティバルの実施(26年度からは 	<p>全体での区社会福祉協議会の役割、大通地区アクションプランの学習会を実施</p> <p>⇒引継ぎがされておらず、状況がわからない、それぞれの活動が見えていない</p> <p>・大通近隣地区において、事件発生時に、老人クラブ、PTA等の組織網を利用し、小学校児童の帰宅時見守りに多大な効果があった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が地域の団体やボランティアに積極的に働きかけ、つながりを求めるようになった(地域教育コーディネーターの活動の成果) <p>・中学生が町内活動を知る機会になった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄が減り、環境美化が進んでいる ・お茶の間は各種行事を計画して参加者の増加を図っている ・保育園児や小学校低学年が、茶の間を訪問し、世代間交流をしている ・子育て講演会は子育て中の家庭に期待されている <p>・夏祭りは大通ふれあい公園で実施し、多くの住民が参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しめる行事に変更 	<p>する体制を構築する必要がある</p> <p>・もっと多くの地域住民に取り組みを広める必要がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も連携をしていくことが大切 <p>・子どもの見守りや子どもと高齢者の顔の見えるつながりとなるので</p> <p>・住民が交流する機会は大切なので</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報を克服する必要がある <p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信、どんな情報があるのか周知させる必要がある(良い取り組み・活動はもっと住民に広めよう!) <p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶の間を知らない方々も多いようなので、PR・広報の仕方を工夫しよう ・今、取り組んでいる経験者の方々が次世代へつなげていく方法も大切 <p>継続～工夫が必要</p>
--	---	---	--	---

	スポレクに変更) ・大通地区文化祭(26年度からコミ協へ移行)			・文化祭は個人作品も減り、なかなか難しい ・足を運んでもらうには現状をしっかりと見つめる必要がある
--	------------------------------------	--	--	--

2. みんなで作ろう安心安全

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○地域内でみんなの声かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯だよりの発行 ・防災訓練の自治会からの連絡 ・高齢者世帯の見守り検討 ・健康講座の実施 ・大通全地区民の公園の清掃 ・警察署による安全講習会実施 ・夜間パトロール実施 ・高齢者へ昼食会 ・敬老会実施 ・コミ協だより ・見守り隊とセーフティ ・公園のグリーン作戦 ・青パト 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治会より全戸へ配布 ・各自治会からの参加者増加 ・大通1自治会で実施開始 ・コミ協参加団体への呼びかけ実施 ・年々参加人数が増加 ・高齢者へ詐欺被害 ・交通災害防止啓発 ・防犯意識の高まりで参加役員増加 ・安心袋配布を含め親睦と健康確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・これらの活動を継続させ、完成度を高める必要がある ・声掛け、挨拶をもっと浸透させたい 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大通は活動が多いので、中途半端に増やさないと良い ・関心が低いものは要検討(健康講座など) ・高齢者の見守り、体制づくりは困難 ・地域の茶の間は自治会単位で、それぞれに合った方法での実施が望ましい
○災害等に対する避難体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の打合せ ・自治会からの連絡 ・防災訓練研修会の実施 ・炊き出し(黄金) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大通全地区の防災訓練実施 ・全自治会独自の連絡網の実施確認 ・困上訓練 ・HUG等で知識と人材育成 ・住民が参加することでつながる ・企業と連携しようとする動きがある ・防災訓練をきっかけに自治会の世帯名簿を作成することができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間のつながりにしたいので 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは家同士の付き合いをしなくてはいけない ・つながりを残すため、班長によるイベント周知で参加を促す ・人材育成面でひと頑張りが必要

<第2回>

○実施日時:平成 26 年 9 月 7 日(日)13:30~15:30

○会場:大通地域生活センター

○参加人数: 35 名(5 グループ)

大通地区の今後の地域課題は？	現在の活動の修正や今後必要な活動は？
<ul style="list-style-type: none"> ・情報の伝達がうまくいかない ・住民に地域情報が伝わらない ・お茶の間はあるが後継者がいない ・住民同士の交流の機会を増やさなければいけない ・子供会と自治会の交流がない ・老老介護や引きこもりの子供をもつ世帯などがつながらない ・セーフティスタッフのメンバーが少ない ・防犯 ・放置されている土地(雑草、木など) ・リーダーが不在 ・元気な高齢者は多いが、サロンの参加者が少ない ・災害時 	<ul style="list-style-type: none"> ・回覧板を手渡しに、顔を合わせたり、声掛けが必要 ・新役員に引き継ぎ出来る資料と体制づくり ・多世代交流、子供たちの見守り隊、PTA 活動、老人会など、もっと情報発信し理解者を増やす(活動の見える化) ・役員の引き継ぎの際には、アクションプランの冊子も引き継ごう ・自治会の後押しがあれば(自治会単位でお茶の間をつくる) ・「魅力ある集まり」(試食やプレゼント等)があれば人は集まる ・集会所の利用を増やす(地域に大いに使ってもらおう) ・ふれあい会館を利用して催し物やお花の教室等をやってみては ・イベント、事業と懇親会をコラボする ・ラジオ体操を活用し、交流と健康づくりを ・自治会と子供会の交流の機会を作り、多世代交流へと発展 ・コミ協に相談できる体制づくりの整備 ・大通ライフネットワークをつくる ・ウォーキングや犬の散歩を利用して見守り活動へ ・ゴミ出しの時に声かけ ・元気な高齢者が集まれるサークルづくり(高齢者の名称も変更が必要) ・平時の隣近所との付き合いが大切 ・平日の昼間を想定した避難訓練も必要

- ・自治会単位での避難訓練
- ・連絡網の活用の仕方、防災無線の活用を検証しなければいけない

大通地区の次期計画スローガン：「老いも若きもスクラム組んで、住んで楽しい大通」

白根地区 地域福祉座談会

【実施概要】

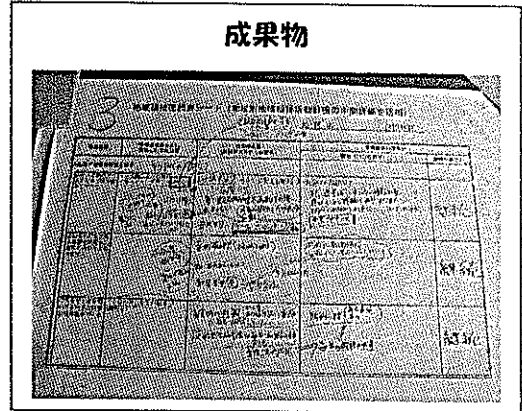
<第1回>

- 実施日時:平成26年7月6日(日)14:00~16:00
- 会場:白根健康福祉センター
- 参加人数:40名(5グループ)

座談会の様子



成果物



【第1回:現計画の振り返り(評価)を抜粋】

1. 集まる場をつくろう

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○お茶の間活動を充実させる	・保健会との話し合いから新規にお茶の間が開設した	・新たに「みの口会」「日出町お茶飲み会」「十五間なかよし会」が開設し、住民の交流拠点が増えた (清楽苑、中央郵便局、さかなまち、みんなの茶の間等あり)	・地域住民の交流の場なので、今後も継続したい	継続 ・参加者が固定化 ・空き家を活用できないか ・周知活動の強化が必要(楽しさを伝える) ・男性の参加者が少ない ・組織化できなければ継続できない ・主催は町内会が良いのでは
○既存のグループ(自治会や趣味サークル)では難しいが、気軽に誰もが集まれる場づくりをコミ協で検討する	・商店街で定例会 ・公園の草取り(年3~4回) ・お祭りに前に神社の草取り	・コミ協で検討されたのかわからない	・気軽に集まれるような場は必要ではないか	継続 ・「ラジオ体操」をきっかけに地域の人が集まる場所もあるので、この地域でもできないか ・小さな単位(町内会)で検討すべき (目標と誰が推進するのか決める必要)

○心配な人に対するの訪問活動を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の訪問活動 ・配布物を届ける際に、班長が声掛けをしている(独居、高齢者のみ世帯) ・日/出町のネットワーク活動 	・住民同士で気に掛けあっている	・住民による見守り活動なので	<p>がある)</p> <p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな町内は取り組みが難しい ・対象者の把握が難しい ・実施方法について検討が必要 ・子ども会から地域行事などの声かけを行う ・保健会と老人会がタイアップして、実施してはどうか
---------------------	--	-----------------	----------------	--

2. みんなが地域の情報を知る

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○地区活動のPR方法を核実施主体が工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・コミ協だよりの発行 ・ポスター、チラシ、回覧板 ・学校だよりの回覧 ・町内会の集まりで情報共有 ・コミ協ホームページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域情報は得られている ・多い配布物の中で、あまり記憶に留まらないのでは(関心のあるものしか見られていない) 	・世代間の交流や地区情報を知ることとはとても大切なので	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫しながら充実させていく必要がある
○お茶の間など集まる場を活用し、地区の活動などを共有する	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の茶の間や、自然に集まる場があり、地域情報を得ている ・自営業の仕事場に休憩時間に男性が集まり、会話を楽しんでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・茶の間の参加状況に差はあるが、参加することにより地域情報を得ている ・参加できない人は他の方法で地域情報を得なければならない ・新興住宅地で古くからいる人と新しい人との交流がなかなかうまくいかない 	・高齢者が情報を得る場として、お茶の間は有効	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性は出不精になっている
○災害など非常時のスム	・「命の笛」を全戸配布(旭町)	・いざという時の安心感が得られ	・限られた地区のみの実施なので、	<p>継続</p>

<p>一スな情報伝達体制をつくる</p>	<p>・町内での災害時の援護体制を確立(古川団地) ・町内会で家族構成を把握し、いざという時の協力体制はできている(文京町、水田町、桜町5)</p>	<p>ている</p>	<p>多くの地区に広げていく必要がある ・防災訓練などを実施し、要援護者の確認を毎年実施する必要がある</p>	<p>・個人情報の問題</p>
----------------------	--	------------	---	-----------------

3. 町内会の活動を見直そう

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
<p>○まつりに積極的に参加してもらうための働きかけをする</p> <p>○地区のみんなが顔見知りになるための活動を検討する</p>	<p>・まつりでよさこいできた</p> <p>・町内総会を兼ねた懇談会(諏訪7) ・花見、祭り、新年会等で年に数回交流(中央5) ・お茶の間、地藏祭り(魚4)</p>	<p>・まつりを継ぐ人が少なくなってきた</p> <p>・8月の白根祭りで山車が少なくなった</p> <p>・アクションプランでお茶の間が増えた</p> <p>・町内の交流が図られた</p>	<p>・少子高齢化に伴い、目標達成は難しい</p> <p>・気軽に集まれるような場は必要ではないか</p>	<p>再検討</p> <p>① 集まるをつくろうに統合</p>

4. 若い世代に「福祉」に参加してもらう

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
<p>○若い世代の自治会・町内会の役員をターゲットとして小さなことでも関心をもってもらおう工夫を検討する</p>	<p>・児童センター交流イベント「南っ子ふゆまつり」に参加</p>	<p>・「南っ子ふゆまつり」は定着した</p>	<p>・毎回、多くの親子が参加しており、交流の場となっているので</p>	<p>継続</p>

<第2回>

○実施日時:平成26年9月16日(火)14:00~16:00

○会場:白根健康福祉センター

○参加人数: 46名(5グループ)

白根地区の今後の地域課題は？	現在の活動の修正や今後必要な活動は？
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の一人暮らし世帯の増大～災害時や孤独死などの際、緊急連絡先が分からない(個人情報壁) ・災害時(水害)の対応や情報伝達の体制が不十分 ・災害弱者をどう守るか ・認知症高齢者の増大～徘徊やゴミだしなど ・引きこもりの人は増えているのでは ・地域の情報が伝わらない ・若い人が少なくなり、町内会の維持も難しくなるのでは ・学校行事にも参加しない、人が集まらない ・集会所があると活用され、住民の交流も図れるが、集会所がない町内会もある ・世代間の交流がない ・住民が集まる機会が少ない～関係が希薄化 ・空き家、空き店舗の増加～植栽、雑草、火災、シロアリ、不審者 	<ul style="list-style-type: none"> ・5人組の復活はできないか ・町内で(隣組で)見守りをする ・災害時要援護者名簿に緊急連絡先を入れ、町内会でも把握できるようにしてはどうか ・避難時の仕組みづくりが必要 ・自治会長の引継ぎルールも必要 ・災害時の情報の流れを明確に ・要援護者マップを作成してはどうか ・町内会としてどこまでできるものか ・勉強する場も必要(特に若い人) ・無線を活用 ・回覧板の作成 ・配布物は町内に配って保存版とする(各種団体の会合などで、積極的に活動をPRする) ・「若者が多く、活気がある地域」が理想 ・子供会と町内会がタイアップ(年代別のキーマンが必要、風を活用) ・地区のコミュニケーションが充実すれば、福祉の充実にもつながる ・自治会での茶の間の立ち上げ ・バラエティに富んだ内容を考えられる世話人、ボランティアが必要 ・健康福祉センター1階の茶の間(広間)の有効活用 ・大勢集まって、会話を楽しむ(顔が見えると支え合いに発展) ・旭町3のような住民参加のラジオ体操活動が広がれば、交流やコミュニケーションも図れる ・集まる場所、多世代交流の場が必要(人が集まるところに情報も集まる) ・空き家や空き店舗をリフォームして、地域の茶の間へ ・空き家を利用して「がんぎ屋」のような人が寄れるようなところをつくる

・アクションプランの推進母体を決める必要がある

・内容によって町内会、連合会、コミ協など、推進母体はかわるのでは
・推進には行政のバックアップが必要(予算や先進地情報等)

白根地区の次期計画スローガン: みんなにやさしい シロネもん

味方地区 地域福祉座談会

【実施概要】

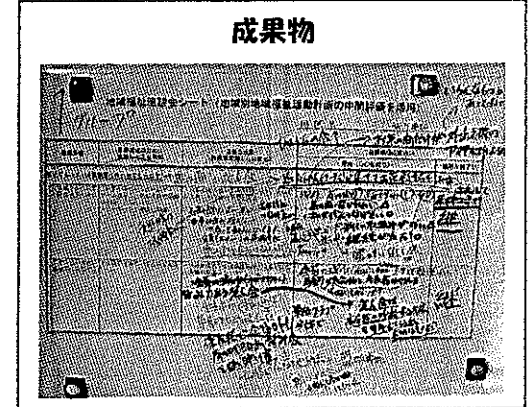
<第1回>

- 実施日時:平成26年7月2日(水)14:00~16:00
- 会場:味方出張所
- 参加人数:23名(3グループ)

座談会の様子



成果物



【第1回:現計画の振り返り(評価)を抜粋】

1. 閉じこもっている高齢者に外に出てもらう

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○地域ごとの茶の間を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶の間のリーダーにアンケート調査し、それぞれの問題を出してもらった ・リーダー懇談会を開催 ・趣味活動 ・近所の人が集まってお茶のみをしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、茶の間が9か所、子育てサロンが1か所開催して交流をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の交流の場であるが、茶の間をわからない人もいる ・新しい取り組みがない ・次世代につなげたい 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫が必要
○老人会の活動に積極的に参加する	<ul style="list-style-type: none"> ・日帰り演劇鑑賞は大勢の参加 ・輪投げは約60人の参加で小学生の参加もあった ・ゲートボール、草取り、楽友荘で会員以外の参加できるお楽しみ会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動で住民同士の交流ができた ・輪投げでは世代間の交流もできた 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の減少(400人⇒370人) ・クラブ数は横ばい ・老人会は高齢者の外出を与えてくれる大切なもの 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある老人会へ

2. 交流の場を広げ、みんなで参加しよう				
推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○障がい児者との交流の場をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ友の会 ・身体障がい者の集まり、運動会 ・小中学校の総合的な学習の時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続していることは、交流の場が減っていないことでもあり大切である ・障がいを理解する機会になった 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな参加はなく、いつも同じ顔ぶれ ・関わっている人しか知らない 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいものではなく、既存のものを修正する必要がある ・青少協の登山等の活動に参加のお誘いが必要では
○男性ボランティアの育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・議論だけで終わっている ～老人会の輪投げには男性も参加している 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動するまでに至っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災等に男性ボランティアの育成が必要なので (日赤の活動には男手が必要) 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な依頼で役割を明確化 ・核になる人を育成 ・頼み上手な女性の存在 ・電球の交換等、ちょっとボランティア
○地区敬老会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・三地区ともに盛大 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者同士の交流の場になっているが、新規会員が入りづらい 		<p>現状維持</p>

※ 「座談会メンバーがもっと頻回に集まる」「誰が何を実施する＝役割分担」などが無いと、次回までに忘れてい、熱がさめてしまう。

<第2回>

○実施日時:平成26年7月25日(金)19:00~21:00

○会場:味方出張所

○参加人数:22名(3グループ)

味方地区の今後の地域課題は？	現在の活動の修正や今後必要な活動は？
<ul style="list-style-type: none">・地域の子供は親たちしかわからない (地域の人が地域の子供をわからない) ・祭りが寂しくなる一方 ・障がい者が外に出ることが少なく、社会的に孤立してしまう (なかなか外に出たがらない、自ら発信することが少ない、個人情報への壁が厚い等) ・認知症、老老介護等、家族のみで支えられない・ちょっとしたことを頼める人がいない ・多世代交流	<ul style="list-style-type: none">・地域行事などで住民の交流を深める・3団体(老人会、婦人会、子供会)が交流する行事が必要・子供たちが屋号を使うようになる ・障がい者も健常者も高齢者も混じり、交流できると良い・青少協との連携(登山など楽しいイベント等) ～対象者の中に障がい者も加える、招待する・地域の方も呼び込む、家族も引っ張り出す・顔見知りになるゲーム、食事をみんなで楽しむ・小林地区のふれあい屋食会を参考にする ・自治会の活性化を図り、地域で助け合えると良い・隣近所で支え合える関係が必要～向こう三軒両隣の復活(地域サイズではなく) ・保育園、学校、地域行事をいろんな手段で周知・声かけ (防災無線の活用はできないのか)
<p>味方地区の次期計画スローガン: なじらね ばかい～ね 味方 いきいき ふれあい ささえあい 味方地区 いきいき ふれあい 味方地区</p>	

月潟地区 地域福祉座談会

【実施概要】

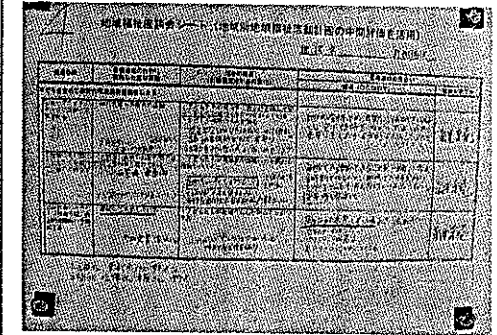
<第1回>

- 実施日時:平成26年6月25日(水)19:00~21:00
- 会場:月潟健康センター
- 参加人数:23名(4グループ)

座談会の様子



成果物



【第1回:現計画の振り返り(評価)を抜粋】

1. 子どもを含めての世代間交流の活動をしよう

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○セーフティスタッフの活動を充実させる	・平日の5~6人が活動	・子どもたちの見守り、声掛けを通して安心・安全な地域づくりにつながっている ・子どもが地域の大人を知る	・セーフティスタッフ活動は月潟・大別当のみの活動で、地域全体の活動にはなっていないので	継続 ・ながら見守りで良いので、地域全体の活動に広げられないか ・スクールバス降車後、自宅までの見守りが必要ではないか ・スタッフ確保が課題 ・中学生の通学路の固定、集団登下校はできないか
○地域の茶の間に子供たちを招いて一緒に活動する	・大別当、曲通、月潟のお茶の間では世代間交流の日を設けている ・西萱場、東長嶋は? ・釣寄は世代ごとに集まりがある	・子どもたちが高齢者や地域の方と関わる機会が持てた	・災害時を考えても、地域での顔見知りをつくるようにしなければいけないので	継続 ・多世代で活動と一緒に考える時期ではないか ・公民館の世代間交流事業を活用したほうが良い
○ふれあいスクール(毎週)	・継続して実施している(参加	・子どもたちが地域の大人を知る	・周知不足もあり、ふれあいスクール	

月曜日)を継続する	児童 50 人ほど) ・小学校保護者からも運営スタッフとして参加してもらっている(年 1 回)	ことができた	のボランティアが少ない、継続性に不安要素あり	継続 ・ボランティアの募集(老人クラブに呼びかける) ・運営スタッフの確保(保護者以外)が急務
-----------	--	--------	------------------------	--

2. 地域の茶の間を各集落につくろう				
推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○今あるお茶の間以外にも、各集落に地域の茶の間をつくる	・現状維持にとどまっている		・新規は立ち上がっていない	継続
○今あるお茶の間については、継続し充実していく	・今ある茶の間は継続実施している ・子育てサロンが月 1 回開催	・立ち上がっているところはうまくいっている ・参加者固定化しているものの、楽しみにしており、子どもとの交流もある ・子育てサロンは就学前の子どもと母の交流の場になっている	・メンバーが固定化し、新規参加者が増えていない	継続 ・魅力あるお茶の間づくり

3. 地区の運動会を盛り上げよう				
推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○月潟地区全体が参加することを目標に、みんなが楽しめる内容を工夫する	・コミ協の会合で意識の統一を図る ・地域住民と月潟テイサービスによる夏祭り開催(運動会ではない)	・地域差はあるが、子どもからお年寄りまで地域住民の交流はあった	・参加者が不足している	継続 ・地区役員の負担を軽減できないか

4. ボランティア・地区のリーダーを育成しよう

推進目標	目標達成のために実施した主な活動	活動の成果 (計画策定時からの変化)	目標達成の度合い	継続・終了
○今ある組織・グループの活動を若い世代に継承する	<ul style="list-style-type: none"> ・南天の会の新規メンバーを呼びかける ・セーフティスタッフによる登下校の見守り ・中学生の奉仕活動がある(駅周辺の草取り、月寿荘の窓ふき、ティサービスでの活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理ボランティアの新規加入につながった(配食ボラと調理ボラで現在、40名ほど) ・ボランティア活動を推奨する学校の生徒は優秀 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢的にやめる人もいるので ・セーフティスタッフとふれあいスクールはどちらかという個人的な要素があり、継承しないと途絶える可能性が高い 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事をしている人もボランティア活動に参加できるような工夫も
○活動を楽しく・満足感や達成感が持てるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・南天の会では調理実習や勉強会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養指導の下、調理の工夫や献立の見直しできた ・南天の会と大別当の茶の間はボランティア登録されている、茶の間は回覧板で活動を周知し、ボランティアもやりがいを感じているのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続させるためには大切なので 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動が地域の人にもっと見えると良い
○個人個人の意識がアップするような啓発事業を充実する	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉のつといを開催 ・土橋先生のお話は意識が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の理解を深め、地域ができること、見守り等の意識が高まった 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔より認知症に対する理解は深まり、隠すことは少なくなった、でも見守りはまだ不十分なので 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潟東では徘徊 SOS が防災無線で流れる、月潟でも同様にできたら

・学童保育もいっぱいスペースが狭い。空き教室が使えると良いのだけど…

< 第2回 >

○実施日時:平成 26 年 8 月 8 日(金)19:00~21:00

○会場:月潟地区公民館

○参加人数:19 名(3 グループ)

月潟地区の今後の地域課題は？	現在の活動の修正や今後必要な活動は？
<ul style="list-style-type: none"> ・普段接していないので交流にならない(子供も親も高齢者も、みんな自分のことで精一杯) ・子供の挨拶は良いが、大人が挨拶をしていない(世代間交流の妨げに) ・中学校の通学路は道が暗い ・茶の間に新規の参加者がいない ・同じ人が何役もしており、負担が大きい ・医者が少ない ・移動販売車の駐車場所まで行けない人への支援(冬場など) ・少子高齢化の進展で、子供がいない地域がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に楽しめる活動が必要 ・保育園や学校に高齢者が行く(イベント以外のときにも) ・地域の人材(陶芸教室、月潟太鼓、カラオケの会、月形町との交流)を活用して、学校で教える機会を増やす ・中学生チームと社会人チームの対戦など、スポーツ交流(バレーボールや野球等)も良い ・高齢化や認知症のことなど、子供たちに伝えていくことが必要(「子供の介護教室」などを開催してはどうか、学校と包括をつなげる活動はどうか(PTA 行事でも)) ・地区行事も工夫が必要では(半日にする等) ・新しいイベントも必要なのでは ・健康センターの有効活用(ふれあいスクール、ひまわりクラブの子供たちが、デイサービスの利用者と交流できるように) ・公民館事業の PR やコミ協との連携で世代間交流は充実するのでは ・中学校の通学路を PTA で決められないものか ・見守る場所を決める ・茶の間の活動を全戸に発信していく(地域によって発信が異なっている、知らない人への周知) ・世代間交流や茶の間の活動をしていくなかで、地区のボランティアやリーダーを育成しよう ・住民同士が声を掛け合うことが必要 ・車と家をつなぐ支援が必要 ・出会いの場をつくってもよいのでは(地元では恥ずかしいだろうし、難しいのでは)

<ul style="list-style-type: none"> ・子供会や祭りが維持できない ・高齢者が増え、ボランティアのな手がいがない ・セーフティスタッフは月湯、大別当のみで、地域の人はその活動を知らない人が多い ・防災組織はつくったが、機能するかは不透明 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣近所の普段の付き合い、つながりがないと機能しない
<p>月湯地区の次期計画スローガン： あいさつ 声かけ 思いやり つながりふとつ 獅子の里</p>	